

財団法人 松下視聴覚教育研究財団

設 立 趣 意 書

科学技術の急速な進歩に伴う情報量の増大と高度化並びに社会意識と価値観の変遷がめまぐるしい中にあって、未来社会を創造し、且つ、対応し得る豊かな人間の育成をめざして、教育のすべての面にわたって教育の現代化が提唱され、既にさまざまな教育実践が行われている。視聴覚教育の分野においては、映像教育・放送教育・視聴覚活動・教育工学的機器活動などがその実例である。

視聴覚教育は、新しい教育機器の開発と活用により目覚ましく発展して現在に至っているが、教育人口の飛躍的な増大と教育内容の多様化・高度化に伴う教育効果の向上と教育の効率化を図るため、これからについても教育の現場により密着した新しい視聴覚教育システムの研究開発がなされなければならないと考える。研究開発の方向は、一つは、教育方法としての視聴覚教育機器及び教材の開発と活用に関する研究で、それは、教授者から学習者への流れの中で視聴覚媒体をいかに活用するか、という立場におけるものであり、いま一つは、学習者から教授者へ、更には学習者相互の情報伝達に効果的に機器を活用し、教育の全課程における一要因としての視聴覚媒体を考えていこうという立場におけるものである。

これら視聴覚教育研究に関しては、既に国立教育研究所始め各地方自治体の教育研究所など公立の試験研究機関による調査・研究・実践が行われ、機器の開発や研究成果の普及に相当な成果を上げておられるが、教育現代化の促進のためには、国の方針に沿って更に具体的・実地的な活動を地道に展開し、視聴覚教育を教育現場に定着させる必要性が大きい。

このような教育界の実態と要請にこたえて、民間では初めての専門的な視聴覚教育研究施設である「松下 AV 教育研究センター」を本年5月に東京に開設して今日に及んでいるが、この間、多くの教育関係者に利用され、各方面から好評をもって迎えられている。更に今後も引き続き視聴覚教育の振興に寄与するための事業を次々と実施する計画であるが、この際、より高い次元からの視聴覚教育の振興と視聴覚教育を通じてのより豊かな人間育成への貢献を恒常的・積極的に果たすためには、これらの事業を一企業としての立場で推進するのではなく、より公共的立場から推進することが肝要である。よってここに財団法人への改組を発起する。

昭和48年11月9日

発起人	森	戸	辰	男
同	緒	方	信	一
同	西	本	三	十
同	有	光	次	郎
同	松	下	正	治
同	小	川		鍛